アートインスタレーション

「モレルのパノラマ」

アーティスト:藤幡正樹



2004年9月18日(土)~10月24日(日) ※火曜休館 10:00~22:00 山口情報芸術センター/スタジオB 入場無料



アートインスタレーション

「モレルのパノラマ」 アーティスト:藤幡正樹

2004年9月18日(土)~10月24日(日) ※火曜休館 10:00~22:00 山口情報芸術センター/スタジオB 入場無料

山口情報芸術センター(YCAM)では、メディアアーティスト藤幡正樹のアートインスタレーション『モレルのパノラマ』を、9月18日(土)より10月24日(日)までの会期で開催します。

「鏡は自分自身を映し込む装置であるが、カメラは自分以外の対象物を映し込む装置である。カメラのレンズは私たちに眼球を想起させ、レンズは視線の代理として被写体へとアイ・コンタクトする。ところが、パノラマカメラを扱ってみると(もちろんこれは極めて日常的ではない経験だが)このカメラには視線がない。これは鏡のような正対する映りこみではない。この複雑に歪んだ人称性を持った鏡(パノラマカメラ)を通して見えてくる自分自身とはいったいいかなる他者か?」 藤幡正樹

「モレルのパノラマ」は、メディアアーティスト、藤幡正樹の新作のアートインスタレーションです。この作品は、パノラマ撮影及び投影装置を用いて、視る者それ自体の表象化を目論もうとするものです。

▼ パノラマとは

パノラマとは、視る者=主体と考えると、その主体をとりまく周囲の全景を意味します。パノラマがもたらすはずの映像は、人間の視覚の一瞥では到達不可能なオールラウンドな広がりを持つものとなります。つまり、パノラマとは本来、何らかの外部の映像テクノロジーを使わずには、人間には見取る=表象することのできないものであり、長い美術の歴史の中でも視覚とテクノロジー(技法や技術)のさまざまな挑戦と逡巡をへてきました。

(たとえば、風景が映像的にリアル(再現的)であることが絵画の描画技法の目的とみなされてくる近代以降は、画像のディテールが写実的であると同時に、その支持体である描画空間を、フレーム型平面ではなくドーム状の人工空間にすることで、360°どの方向も見ることが可能なシームレスの映像的イリュージョン装置をパノラマとして産み出したりしてきました。映像をイリュージョンとみなす方向のテクノロジーは、映画による特殊撮影やマルチワイドスクリーン利用による上映、また現代のコンピュータによるさまざまなバーチャルリアリティ技術にも連結していきます。)

▼ 外部の世界を知ることの意味

外部の風景を描くこと=映像化という問題は、<描く=表象する>主体が、本来未知である外部の存在を知るうとし、外部の情報を知識として主体内部にデータを取り込み、想像可能にすること=領土化作用(テリトリズム)と読み換えることもできます。事実、近代化の歴史の中で、絵画の描写技法とスケールの拡大に並行して、地勢上の再編成という専制国家主義の領土化政策が進行したのも、存在と視覚を同期させる(同時に支配下におきたい)欲望という根源的モチーフからこれらが同じく発したといえるでしょう。

▼ パノラマとテクノロジーの新たな関係性

しかし、く主体ーパノラマ>の間には、未だに魅力的な解明されていない要素の緊張感が漂っているのではないのでしょうか。「モレルのパノラマ」では、その可能性を問いかけます。一方で、主体が 1 点の中心となって、外部を監視しデータを取り込んでいく(領土化する)、その結果としてパノラマという形式が形成されることに対して、それとは逆の力があってもよいのではないかという発想提起です。それは、主体自身が想像不可能な外部に吸い出されてしまうという不安定な構図の出現にほかなりません。そこでは、主体がゼロ度の強度となって、その存在が外部=未知のパノラマに向けてバラバラに洩れ出してしまうことになります。

そのとき、吸引の重要な役割をになうのが、新しい発想による映像化テクノロジーです。今回の「モレルのパノラマ」では、「全方位センサー」とコンピュータによる独自のプログラムとそれらのシステムの空間的アレンジ、時間のストラテジーによって作品を実現しています。それを視るく私>、テクノロジーによって視られ引きはがされるく私>の感覚=リアリティは、いったいどのように変化していくのでしょうか。ぜひ、実際に「モレルのパノラマ」の作品空間に入って、自身の身体と感覚で体験してみてください。

▼ モレルとは

「モレルのパノラマ」という作品タイトルは、アルゼンチンの作家、アドルフォ・ビオイ=カサーレスが1940年に発表した驚くべき小説『モレルの発明』(邦訳・清水徹訳/水声社刊)より、その主人公モレル氏の名から採られています。

「…実際のところ、<もの>の再現はそれ自体<もの>ではあるが --たとえばある家の写真が別の<もの>を表す<もの>であるように-- 、再現された動物や植物は、動物でもなければ植物でもない、私はそう思っていました。わたしのつくりだした人間の模擬像には、明らかに(映画の登場人物と同じように)その人自身の意識は欠けているであろう、と私は確信していました。

ところが思いがけぬ事態に出会いました。いろいろ苦労を重ねたのちのことですが、ここの機械の性能がうまく調和するように組み合わせているうちに、私は再構成された人間そのものに遭遇したのです。しかもその人間は、映写機のスイッチを切れば姿を消すのですが、そのままにしておくと、撮影された過去の情景に対応する時間だけ生きていて、その時間が過ぎてしまうと、同じ情景が最初から繰り返される。まるで、終わればはじめに戻るレコードやフィルムのような感じなのです。その上、再構成された二元は、現に生きている人間とまったく区別ができないほどです。(彼らは別の世界を一たまたまわれわれの世界と隣接してしまった別の世界を動きまわっているように見えるのです。)…」

アドルフォ・ビオイ=カサーレス「モレルの発明」より

<アーティストプロファイル>

藤幡正樹(ふじはたまさき)

1956 年東京生まれ。慶應義塾大学環境情報学部助教授を経て、現在東京藝術大学先端芸術表現科教授。80 年代よりコンピュータアニメーション、CG などの作品をいち早く発表し注目を集める。90 年代以降は、インタラクティブなメディアテクノロジーの最先端に取り組みながら、それらを芸術表現へと模索・開拓し、独自のインターフェイスやプログラムを用いたプロジェクトを多数発表。つねにリアリティとコミュニケーションの関係を追求するアートの世界的第1人者として評価されている。

代表作品として、ネットワークをテーマにした作品「Global Interior Project#2」は 96 年にリンツ(オーストリア)のアルス・エレクトロニカでグランプリを受賞。 97 年にはインタラクションをテーマにした作品「Beyond Pages」がカールスルーエ(ドイツ)のメディアアートセンターZKM のコレクションになる。98 年には ZKM にて客員芸術家として滞在し、現地で制作したネットワーク作品「Nuzzle Afar」をドイツ・ハンガリー・オーストリア・日本 をつないで発表した。最近では、作曲家の古川聖、プログ

ラマーのウォルフガンク・ミュンヒと共同で、音楽における楽器と楽譜の関係をインタラクティブな操作で理解し楽しむことのできる CD-ROM 作品「Small Fish」を発表。それをベースに、インスタレーション版、トランペットなど生楽器と組み合わせたライブコンサート、聴覚障害者が作曲参加するバリアフリーコンサートなどへと展開している。また 92 年以来現在に至るまで、GPS 技術を利用して巨視的なフィールド上の動きをトレースし、新たなジオグラフィーをヴァーチャルに実現していく作品&ワークショップ「Field-Works」を国内外各地で実現させている。 02 年には銅金祐司との共作で、蘭とロボットをインターフェイスさせる作品「オーキソイド」を日本科学未来館「ロボットミーム」展(東京)に出展。03~4 年にはそれを発展させたバージョンをパリ日本文化会館「ひととロボット展一夢から現実へ」に出展。

山口市では、02 年 3~5 月に YCAM 主催のプレイベントとして(協力:山口ケーブルビジョン株式会社)、会期中ケーブル TV (19ch) でヴァーチャルスペース作品を 24 時間放映し、一般市民がアクセスしてアバターを通じてリアルタイムで会話を映像化できる「Off-Sense〜共有するサイバースペース」展を開催した。また市内の小学校で、ワークショップとして特別授業を行っている。

■概要

アートインスタレーション 「モレルのパノラマ」 アーティスト: 藤幡正樹

プロジェクトキュレータ:阿部一直 (YCAM)

2004年9月18日(土)~10月24日(日) ※火曜休館 10:00~22:00 山口情報芸術センター/スタジオB 入場無料

協力:カワシマ・ラボ 製作協力:YCAM InterLab

主催:財団法人山口市文化振興財団 後援:山口市、山口市教育委員会 企画制作:山口情報芸術センター

*関連レクチャー「全方位カメラとパラレル・リアリティ」/講師:藤幡正樹

日時:2004年9月18日(土) 13:00~14:30 場所:山口情報芸術センター/スタジオC

入場無料(先着80名)

<山口情報芸術センター(YCAM)へのアクセス> JR新山口駅から

- ・JR山口線湯田温泉駅下車、徒歩20分/タクシー5分
- ・JR山口線山口駅下車、徒歩20分/バス10分(中園町か済生会病院前下車)/タクシー5分
- ・防長バス25分、中園町下車

自動車利用

- ・山陽自動車道で防府東ICから30分
- ・九州・中国自動車道で小郡ICから15分

<お問い合わせ> 山口情報芸術センター(広報担当:小滝)

山口情報芸術センター(広報担当:小滝) 山口県山口市中園町7-7 〒753-0075 TEL:083-901-2222 FAX:083-901-2216 info@ycam.jp http://www.ycam.jp/